

国土交通省 国土の長期展望に関する勉強会

2050年のライフスタイルと国土の姿 —文明のパラダイム・シフトをめざして—

2017年 11月6日

静岡県立大学 鬼頭 宏

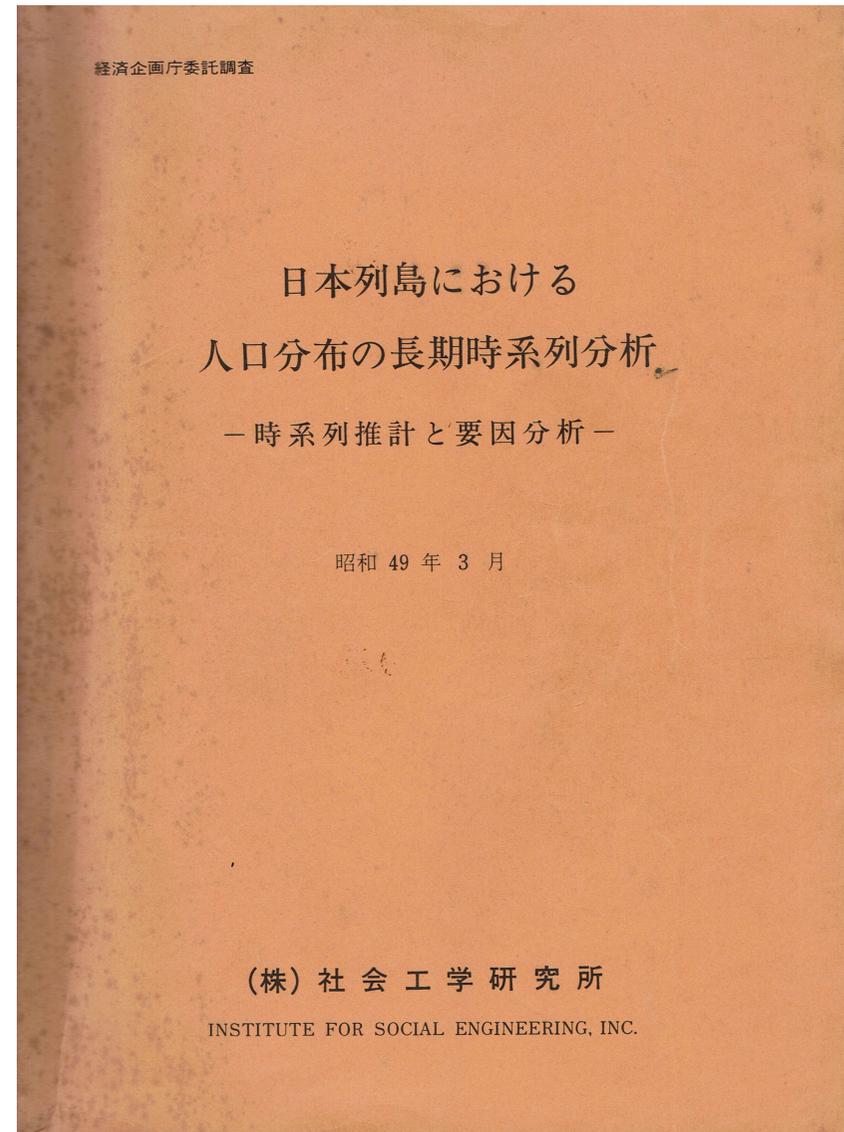
<kitou-h@u-shizuoka-ken.ac.jp>

国土開発計画・国土形成計画との関わり

三全総

1977年策定 定住圏構想

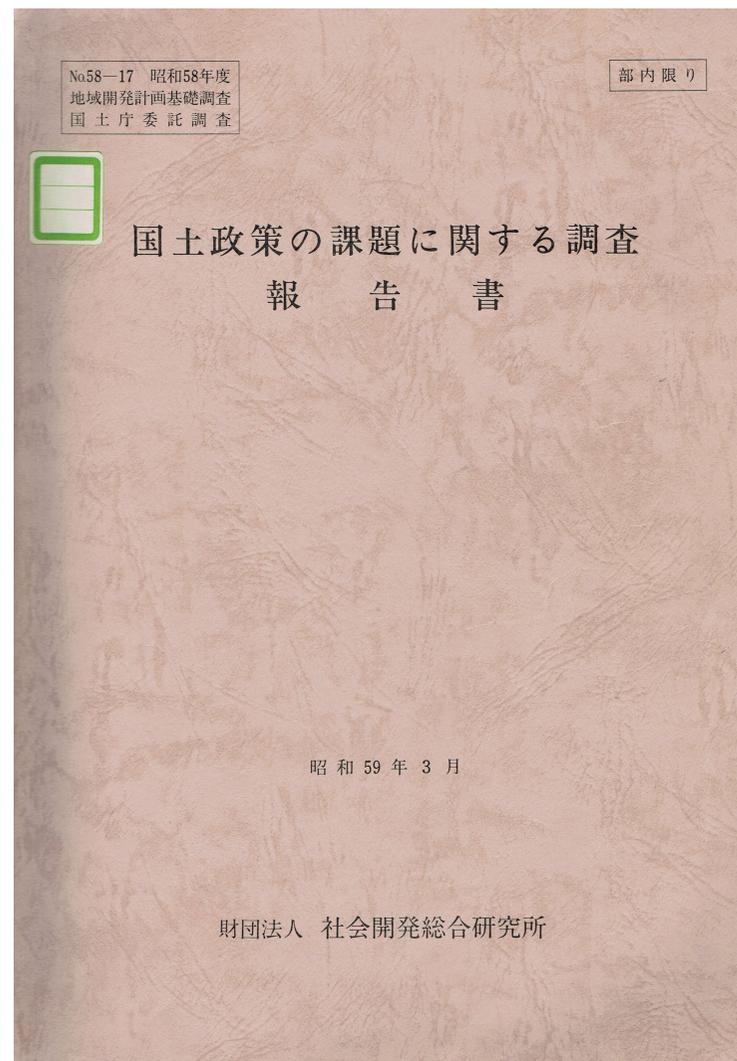
社会工学研究所
『日本列島における人口
分布の長期時系列的研
究—時系列推計と要因
分析—』
1974年3月



四全総

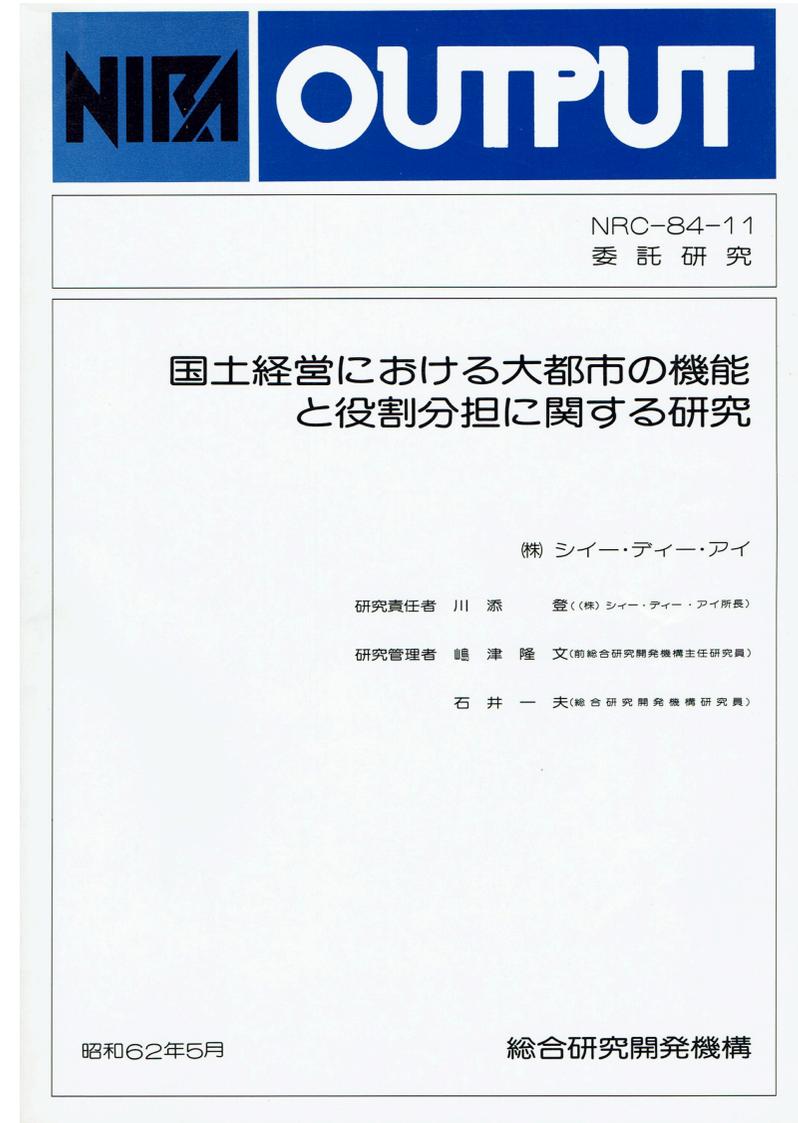
1987年策定 交流ネットワーク方式 多極分散型国土の構築

社会開発総合研究所
『国土政策の課題に関する調査報告書』
1984年3月



NIRA 委託研究

シー・ディー・アイ
『国土経営における
大都市の機能と役割
に関する研究』
1987年6月



国土形成計画

国土審議会計画部会
『国土形成計画(全国
計画)に関する報告』
2007年11月

国土審議会特別委員
(2006年10月～09年3月)
ライフスタイル・生活専門
委員会委員長

国土形成計画(全国計画)に関する報告

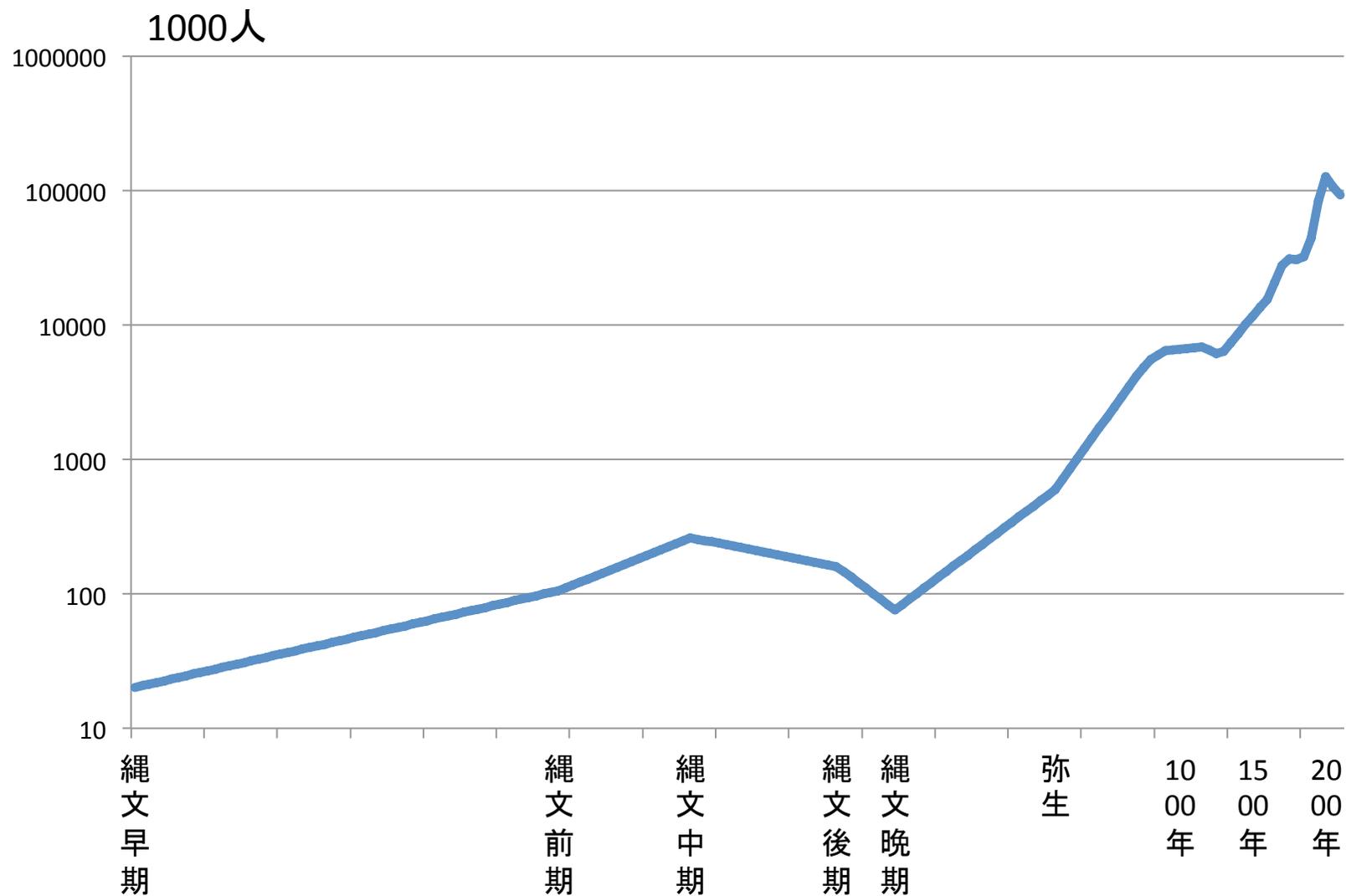
平成19年11月

国土審議会計画部会

人口波動の発見
— 文明転換と環境変動 —

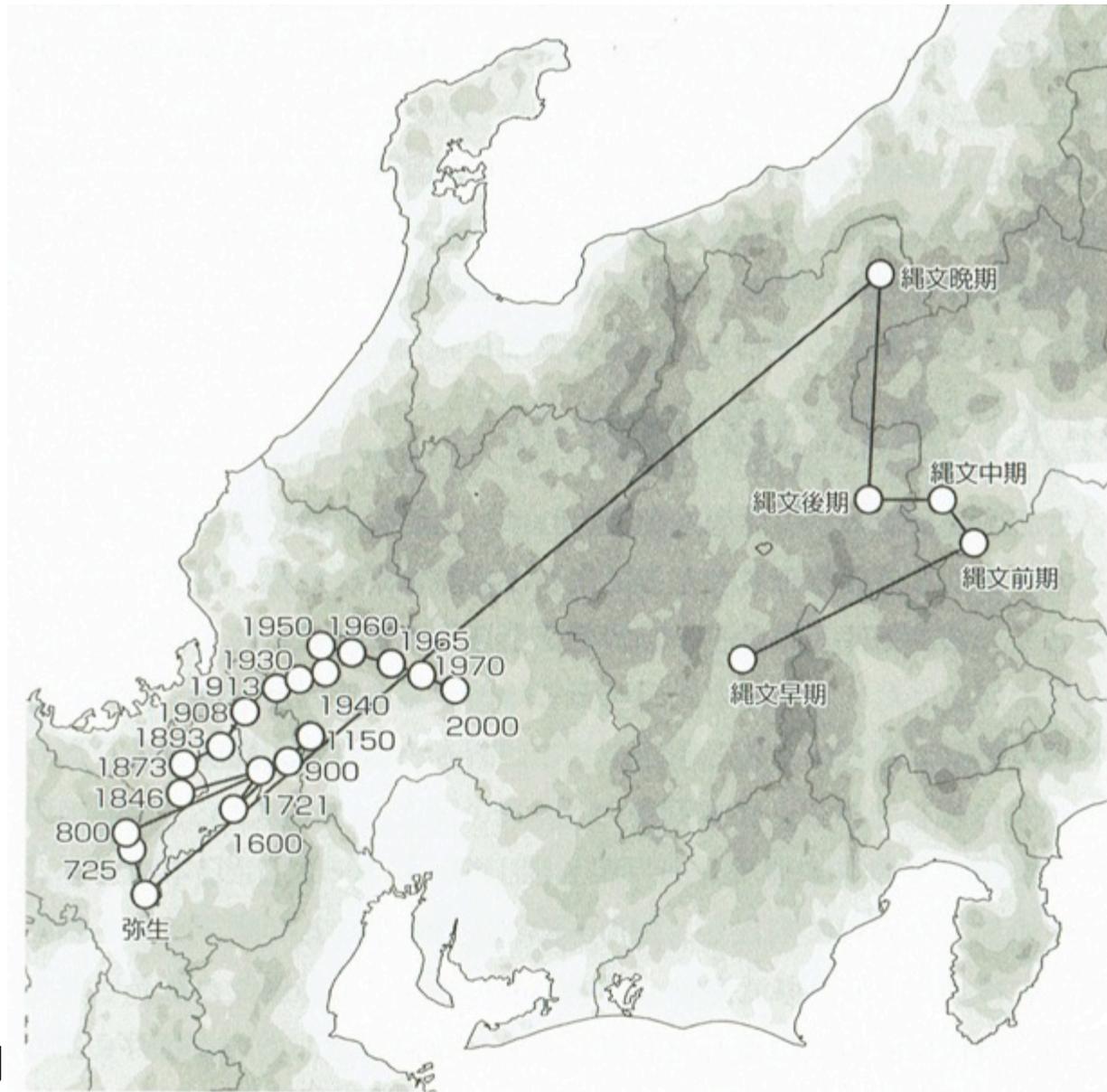
日本列島の人口推移

-縄文時代～2100年-



人口重心

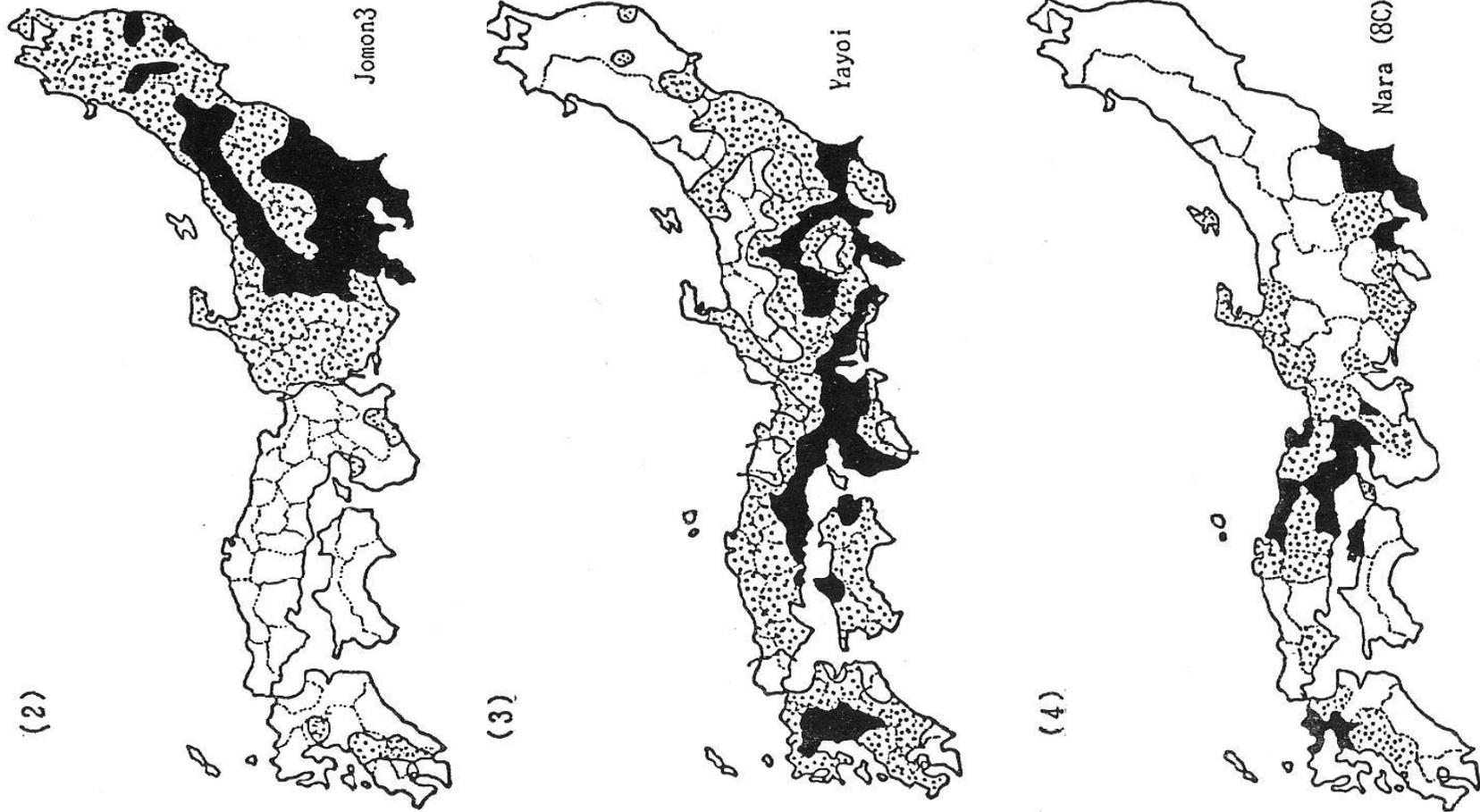
縄文前期～
2000年



鬼頭宏『図説 人口で
見る日本史』2007より引用

縄文早期から1150年までは鬼頭宏の推計、1600年から1940年までは社会工学研究所、
1950年から2000年までは総務省統計局国勢調査報告書による。

人口密度分布(1)

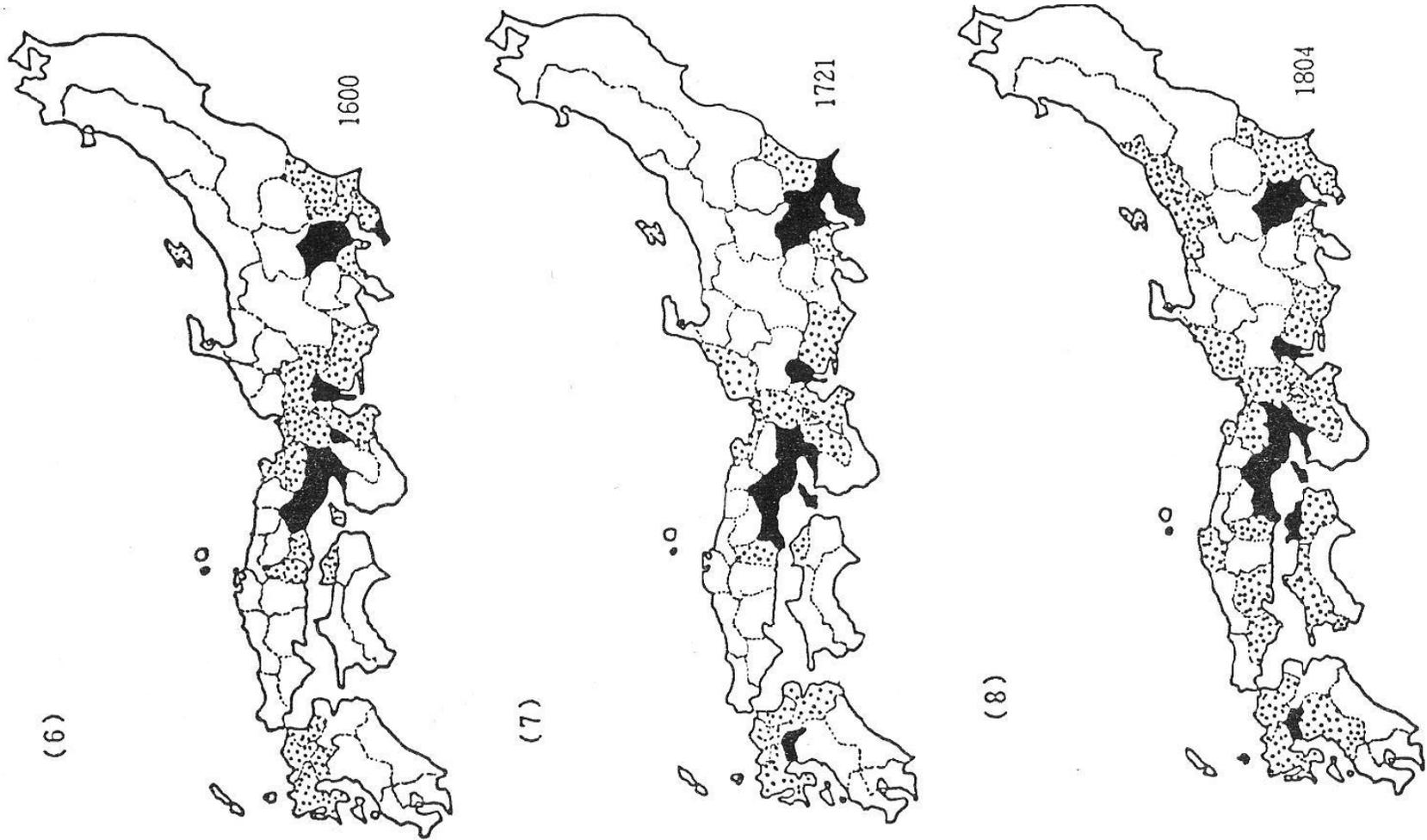


小山修三(KOYAMA 1978)

鬼頭(1984)

[社会開発総合研究所『国土政策の課題に関する調査報告書』(1984)掲載]

人口密度分布(2)

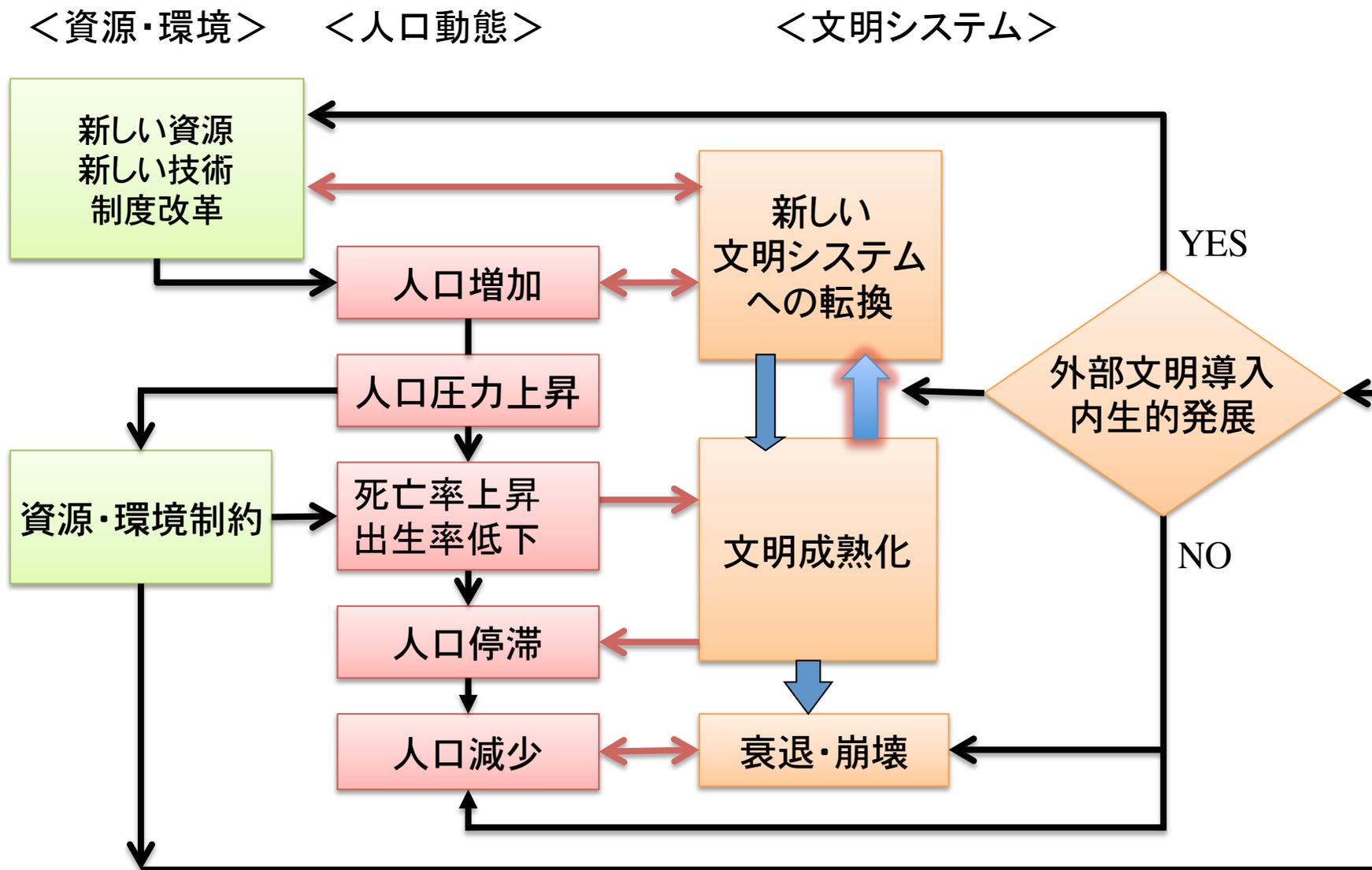


鬼頭(1984)[社会開発総合研究所『国土政策の課題に関する調査報告書』(1984)掲載]

日本列島の文明システム

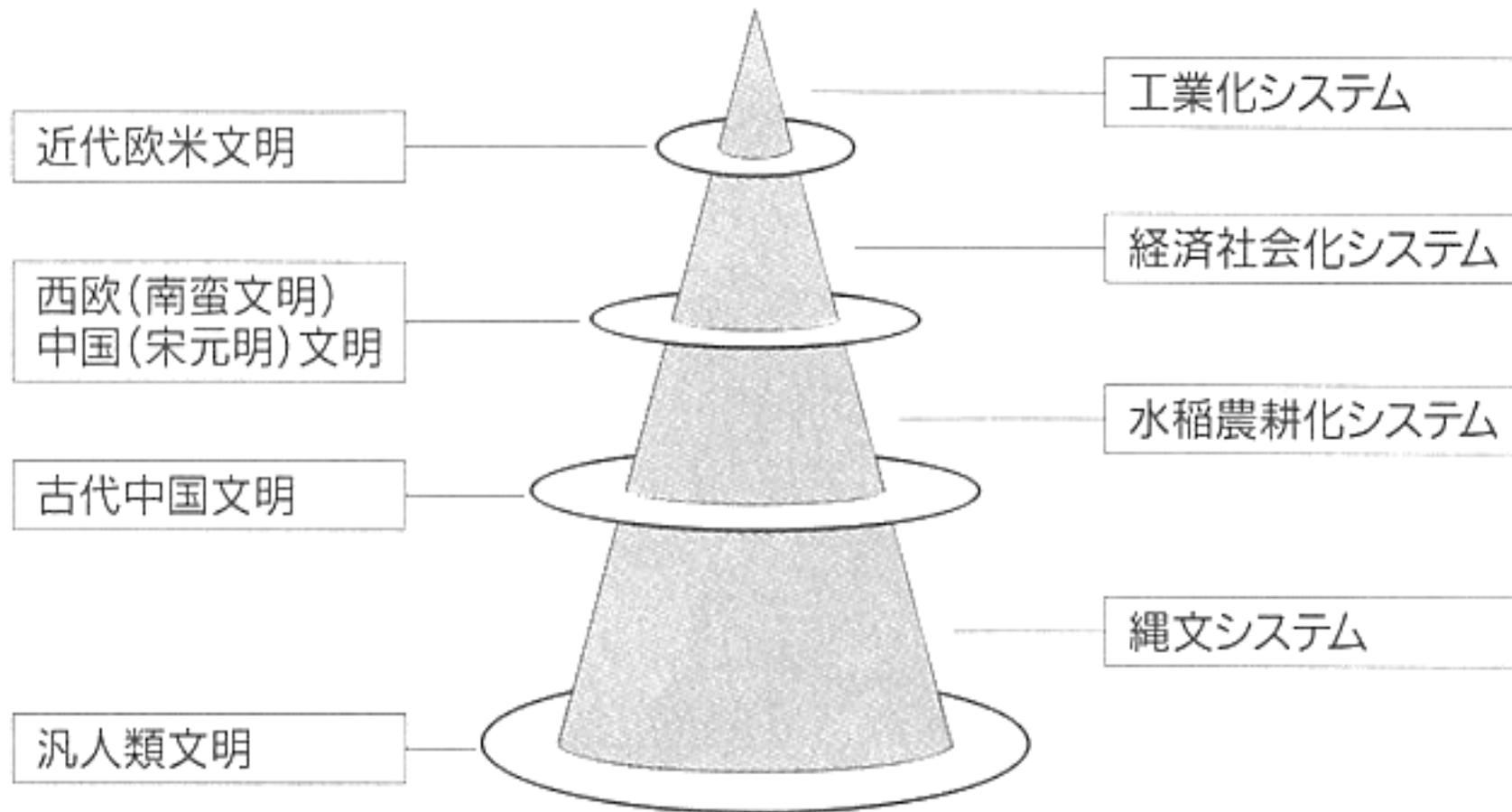
文明システム	1	2	3	4	5
	縄文	水稻農耕化	経済社会化	工業化	?
時代	縄文	弥生～鎌倉	室町～江戸	明治～	21世紀?～
最大人口密度 (人/km ²)	0.9 (縄文中期 4300年前)	24 (平安末期 1150年頃)	112 (文政11年 1828年)	339 (2008年)	?
文明の段階	自然社会	農業社会	農業社会	産業社会	脱産業社会?
主要エネルギー資源 (食料以外)	生物・人力	生物(牛馬) 人力・自然力 (風力・水力) (有機経済)	生物(牛馬) 人力・自然力 (風力・水力) (高度有機経済)	鉱物 (石炭・石油・天然ガス・ウラン) ・自然力(水力) (鉱物エネルギー経済)	再生可能エネルギー (脱炭素社会)
主要な経済様式	伝統 (採取・狩猟・漁労)	伝統 + 指令	伝統 + 指令 + 市場	市場 + 指令 (税・社会保険料)	市場 + 指令 + 伝統 (家政・互酬)

文明システムの転換モデル(試案)



Japanese Pole

外部文明との接触と日本文明の転換



出典: 鬼頭「日本における文明システムの転換—人口・環境・国際関係」『無限大』(IBM)91号(1992.08)

人口集中と都市

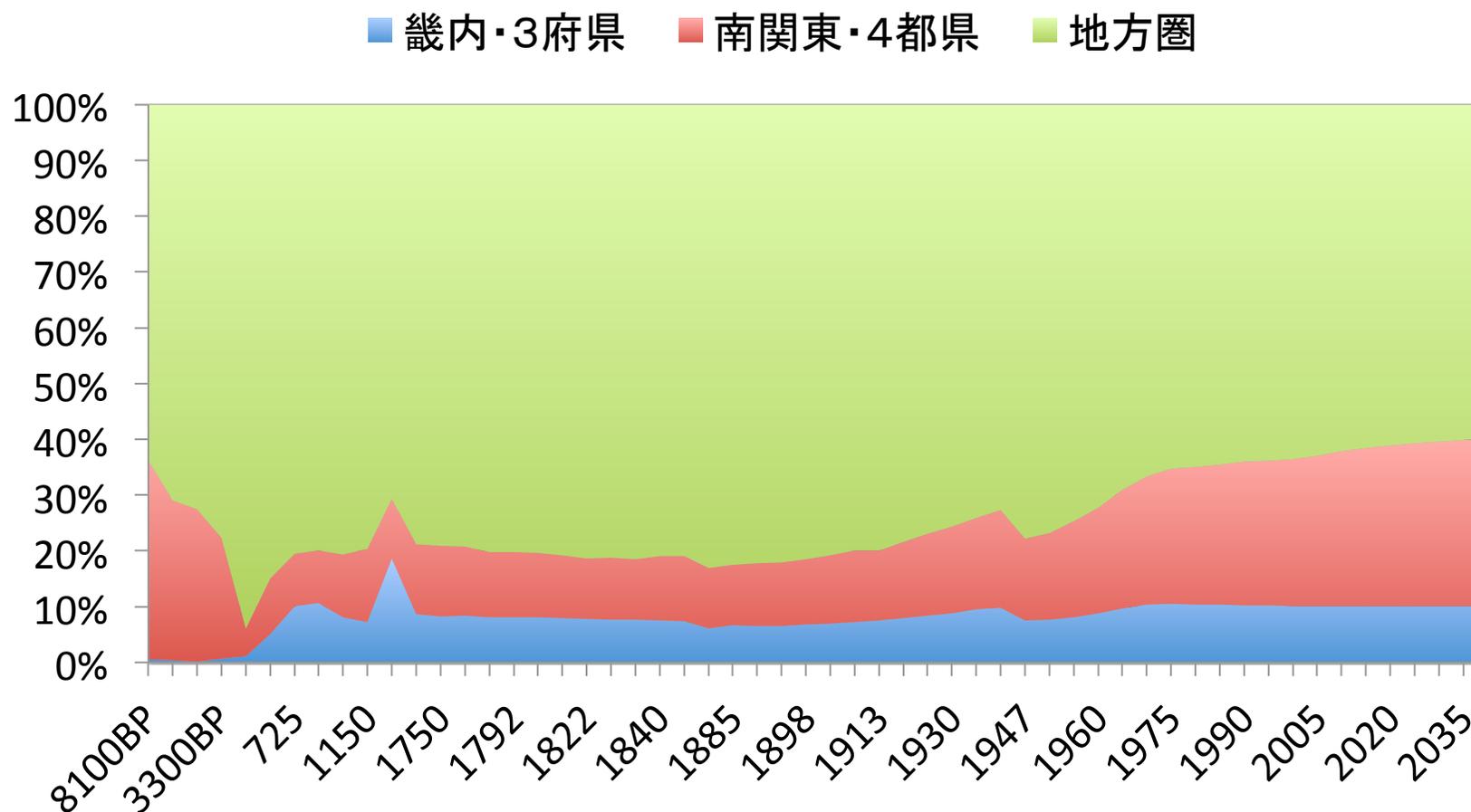
消滅可能性 自治体

『地方消滅』より引用

2040年に20～39歳の女性が
50%以上減少する市区町村

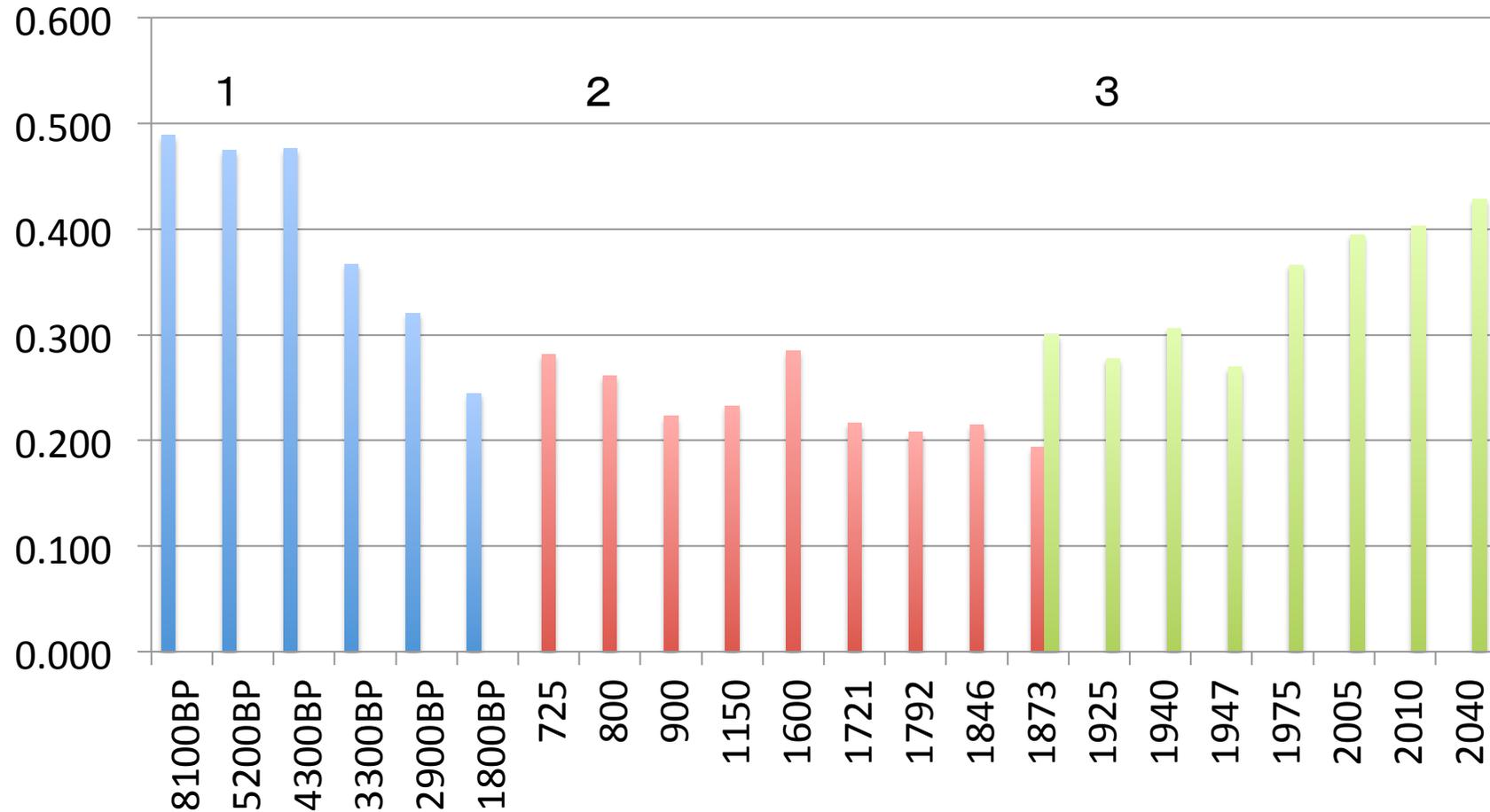


畿内(3府県)と南関東(首都圏)の人口シェア(%) —縄文時代～2040年—



注: 2015年以降は社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』平成25年3月による。

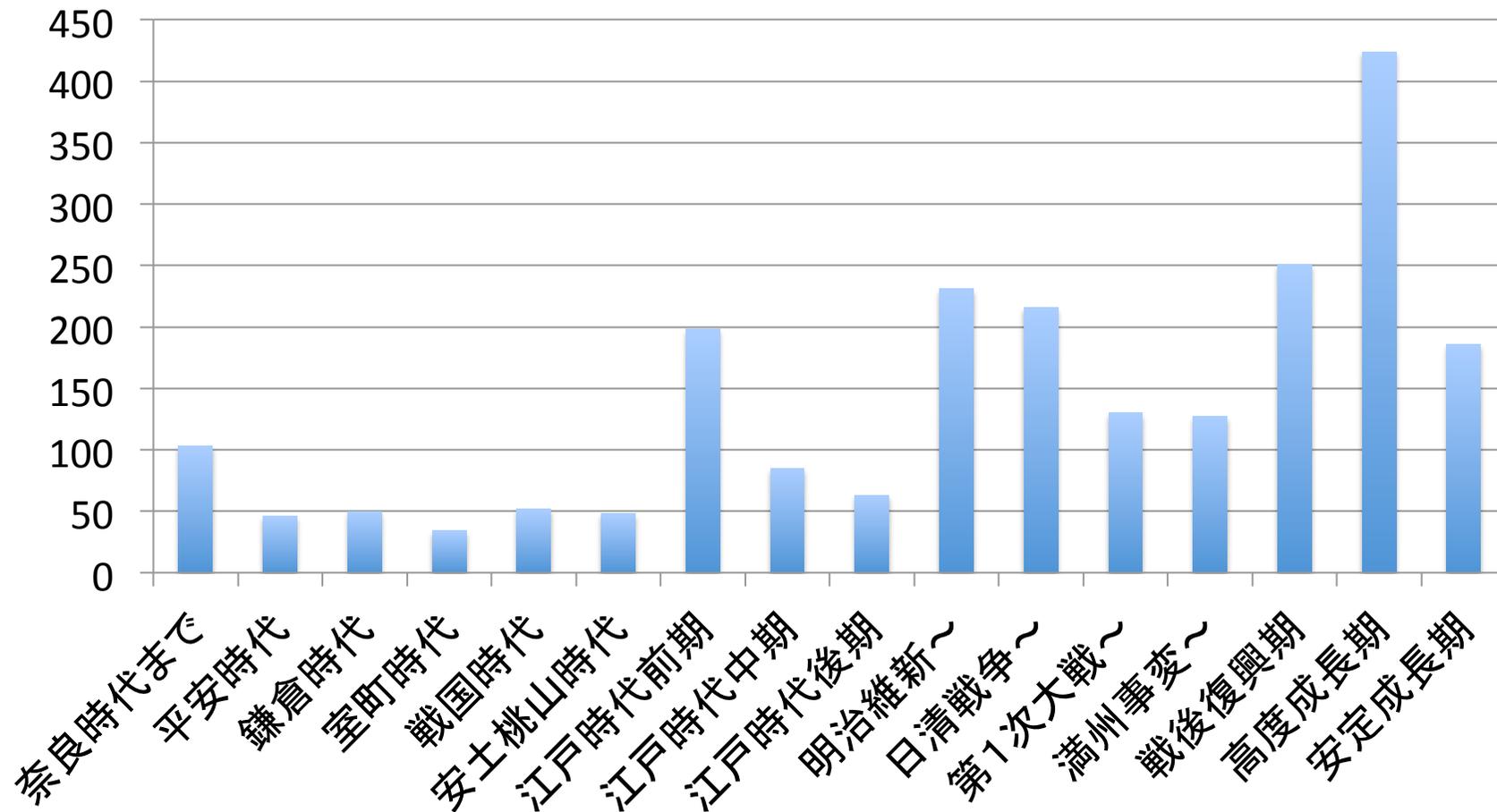
人口集中指数(Hoover Index)の推移



- 注:
- 1 1935年面積、都府県別人口に基づく14地域(北海道、沖縄県を除く)
 - 2 1935年面積、国別人口に基づく14地域(蝦夷、琉球を除く)
 - 3 2000年面積、都道府県別人口にもとづく16地域(北海道、沖縄県を含む)

時代別発展都市数

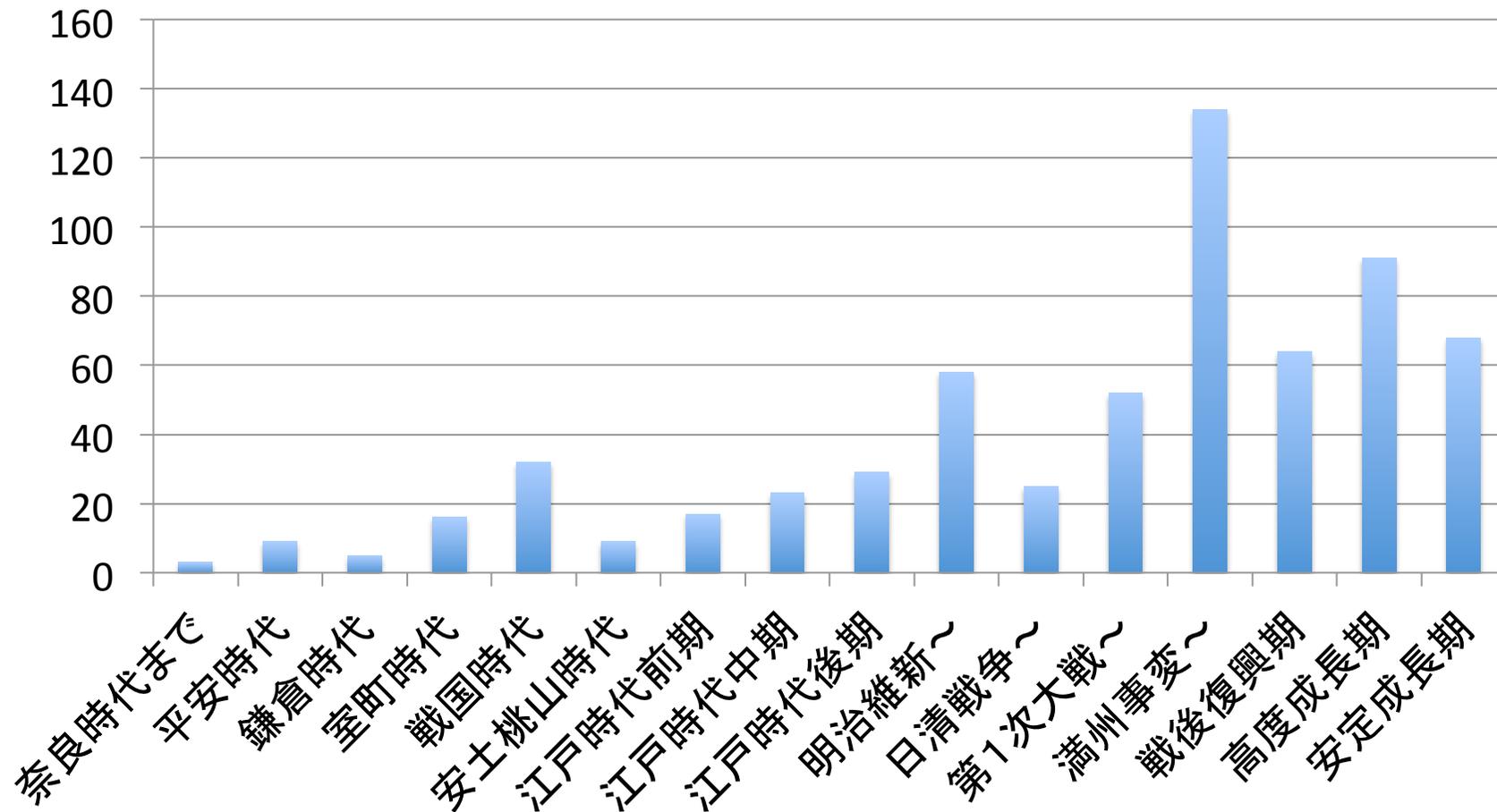
社会開発総合研究所「国土政策の課題に関する調査報告書」(1984年3月)



* 全国の674市に対するアンケート調査(回答 535市、東京23区を含む)

時代別衰退都市数

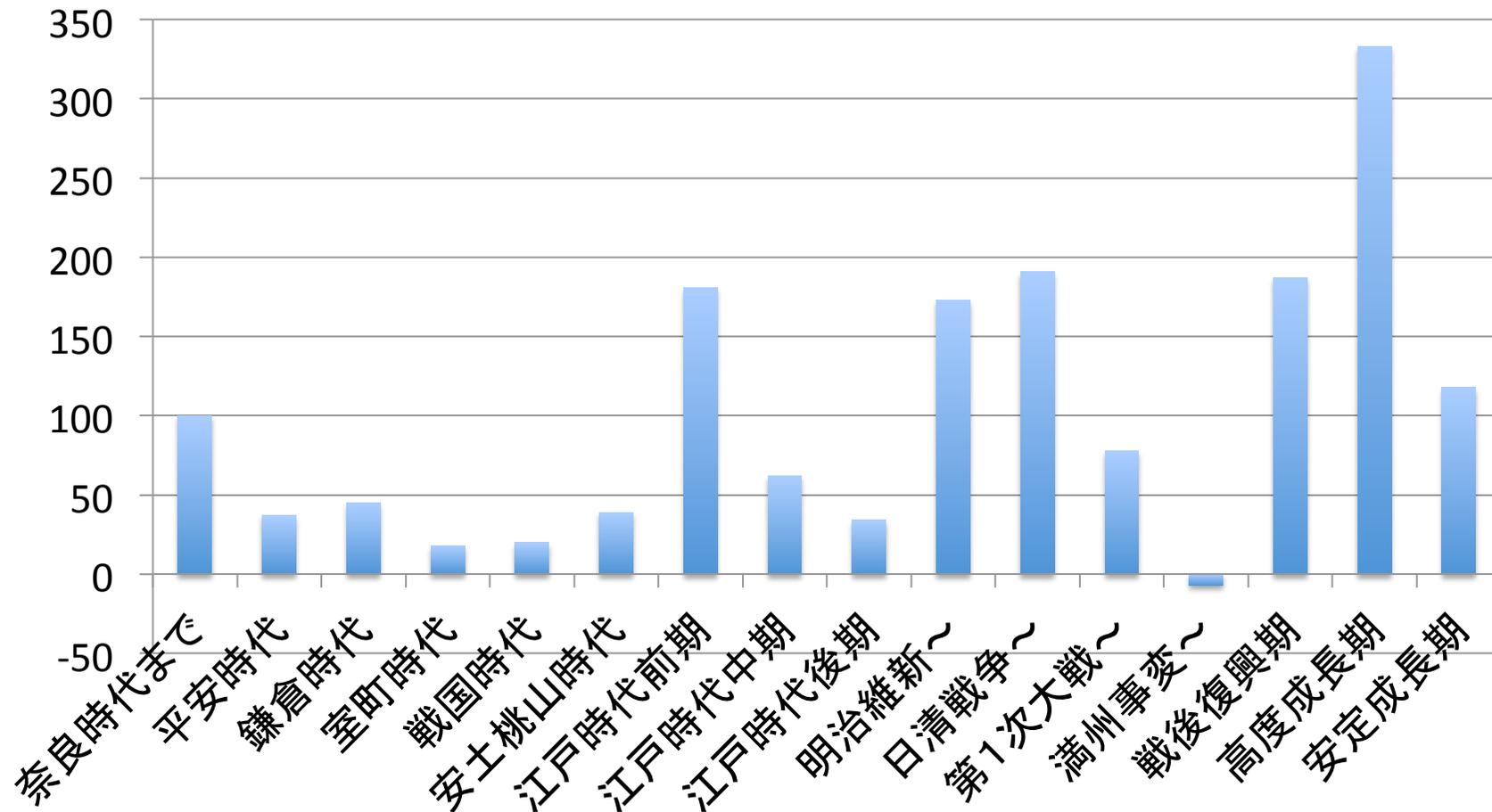
社会開発総合研究所「国土政策の課題に関する調査報告書」(1984年3月)



* 全国の674市に対するアンケート調査(回答 535市、東京23区を含む)

時代別純発展都市数(発展一衰退)

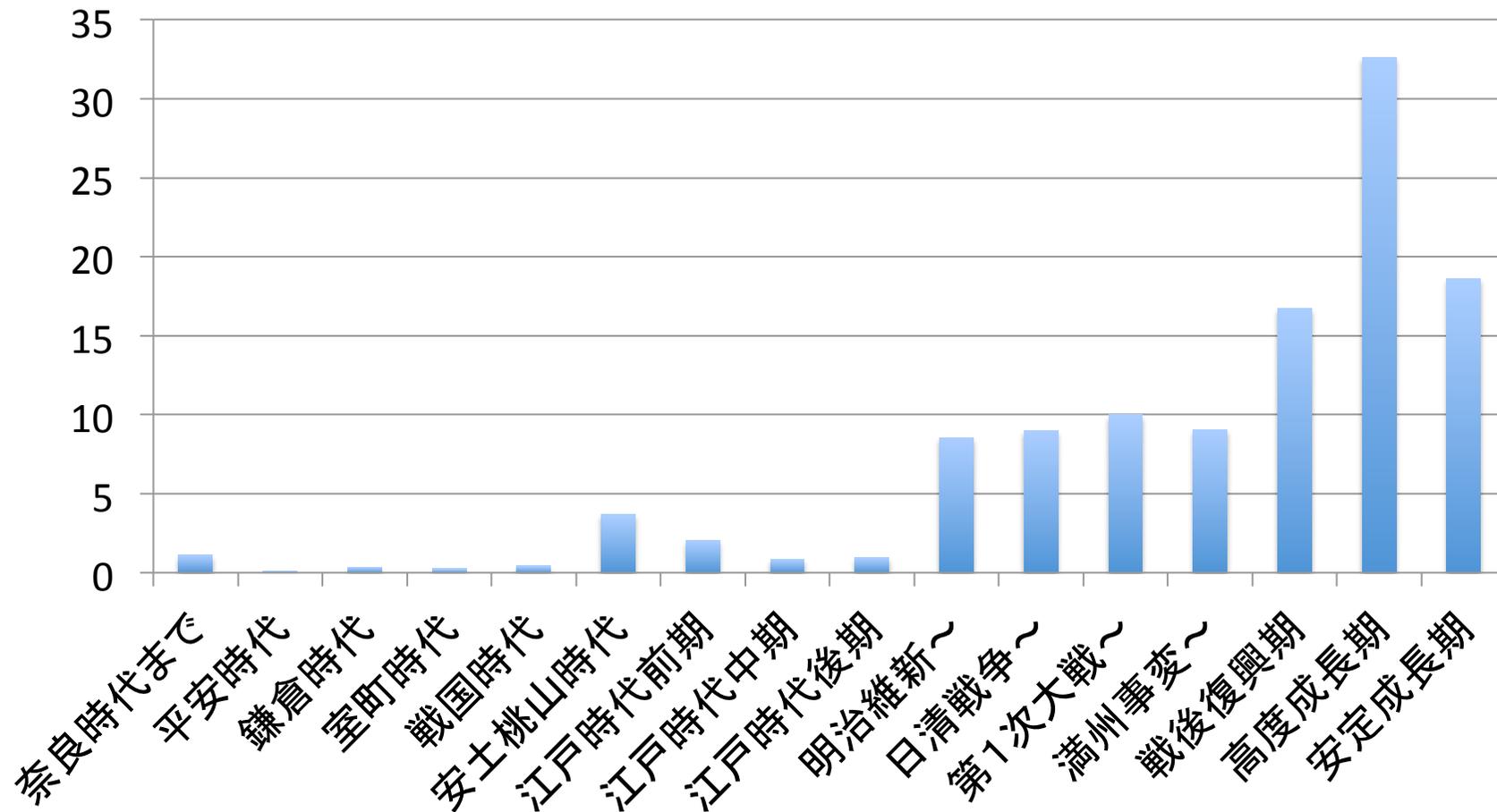
社会開発総合研究所「国土政策の課題に関する調査報告書」(1984年3月)



* 全国の674市に対するアンケート調査(回答 535市、東京23区を含む)

時代別発展都市数(1年当たり)

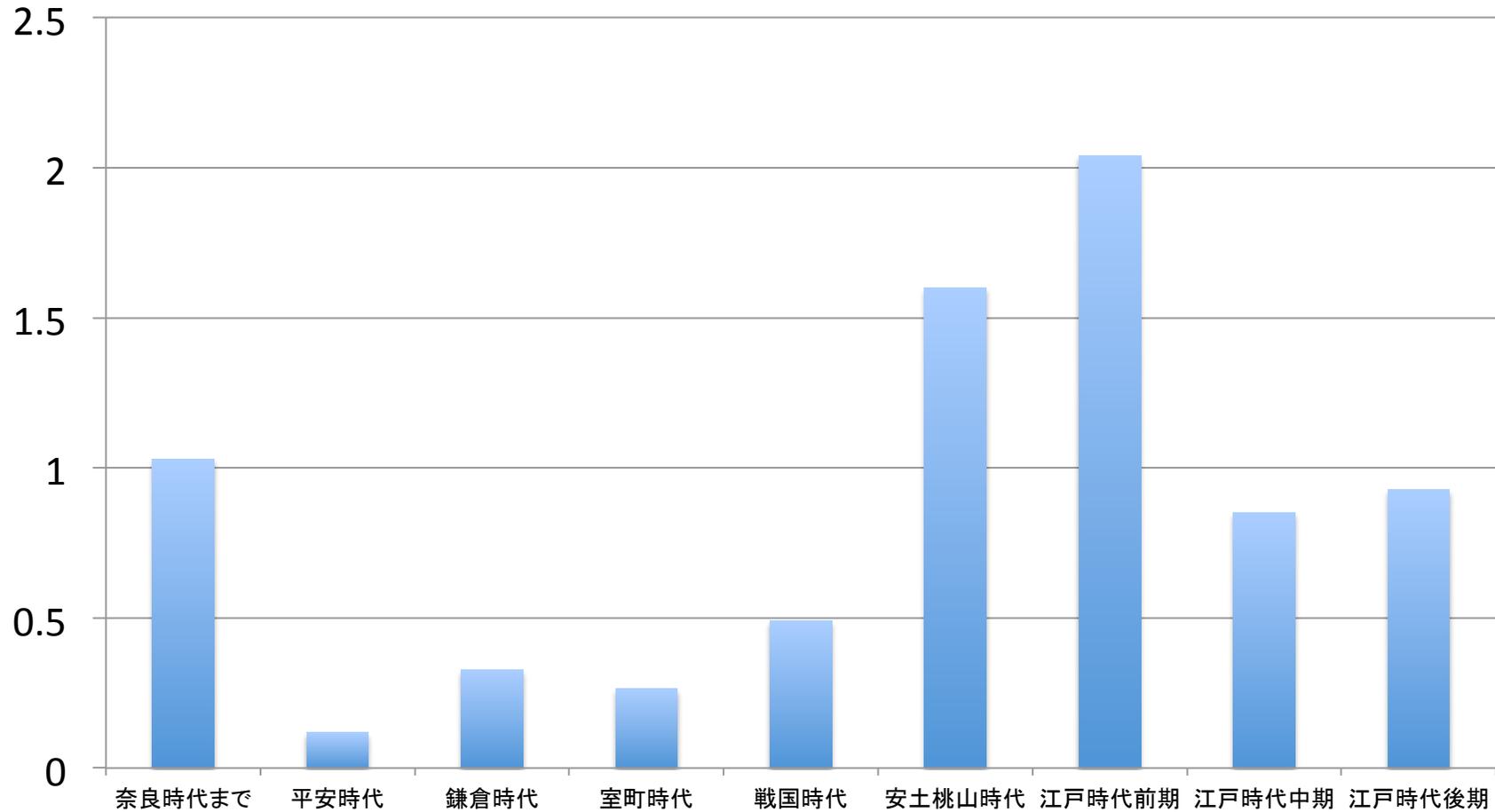
社会開発総合研究所「国土政策の課題に関する調査報告書」(1984年3月)



* 全国の674市に対するアンケート調査(回答 535市、東京23区を含む)

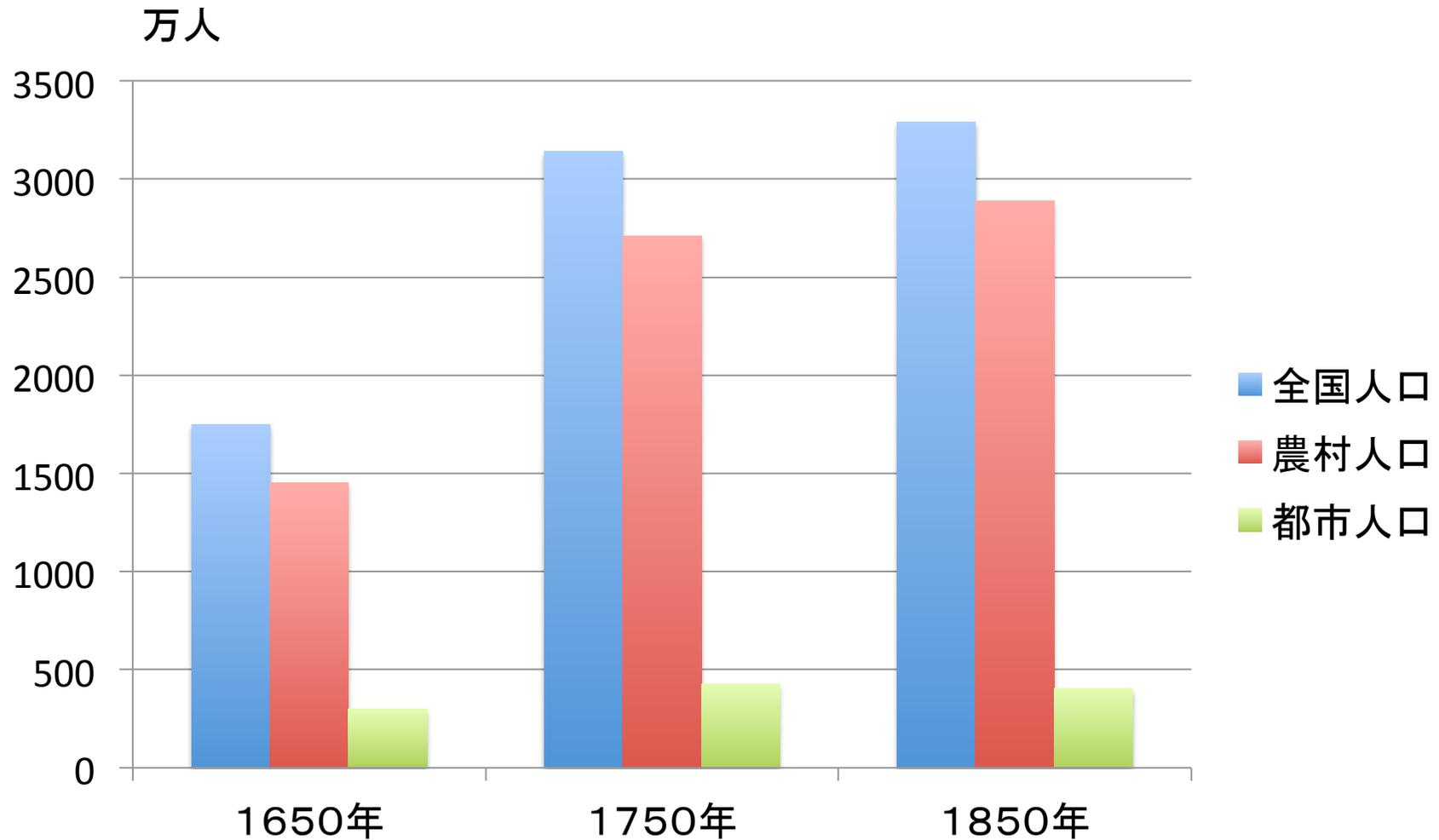
時代別発展都市数(近代以前)

年あたり都市発展数



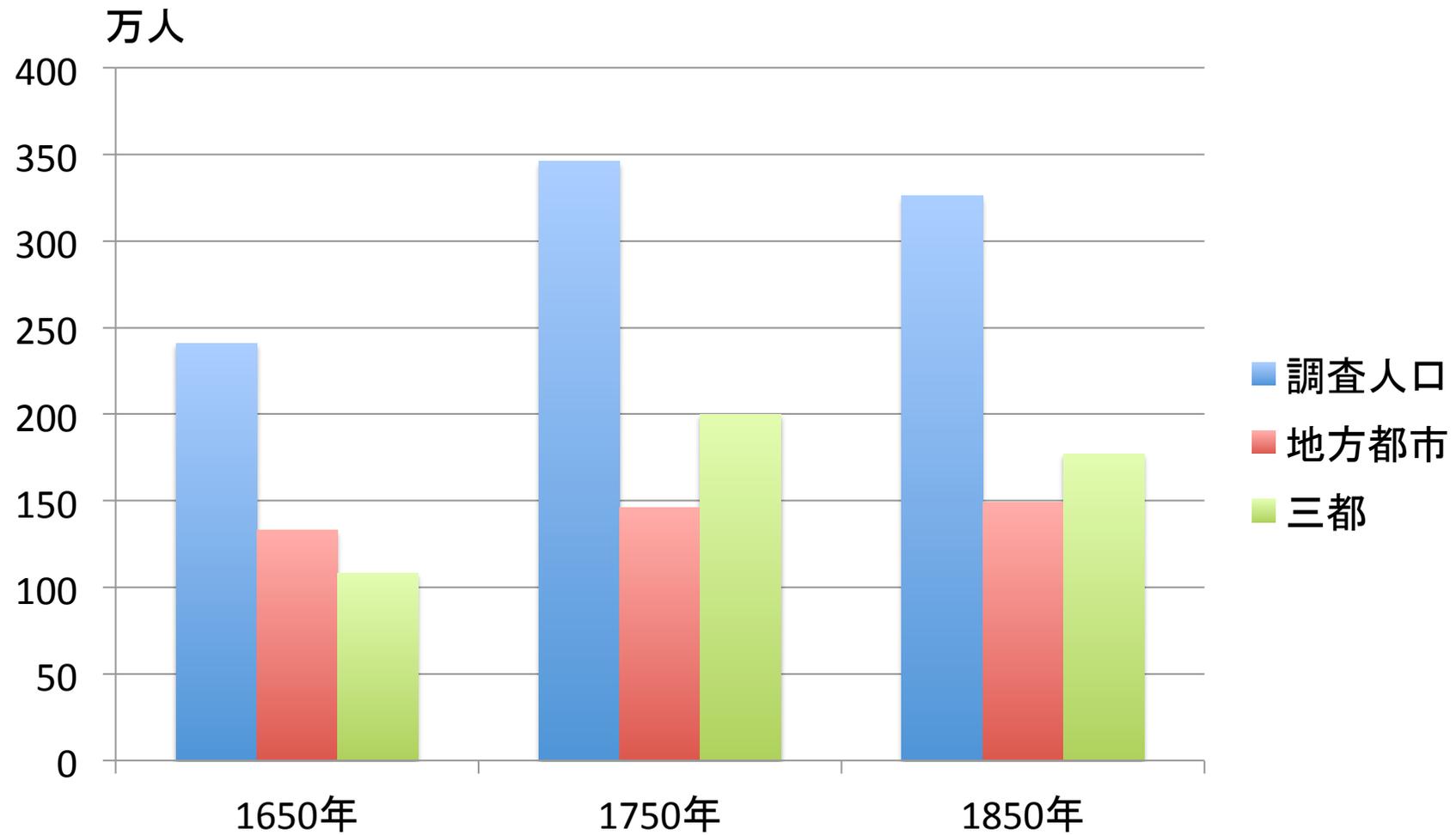
資料: 社会開発総合研究所「国土政策の課題に関する調査報告書」(1984年3月)
注: 全国の674市に対するアンケート調査(回答 535市、東京23区を含む)

江戸時代における都市、農村人口の推移



* 斎藤誠二「江戸時代の都市人口」。
ここでは全国の都市人口は実際に調査した64の都市人口から推計したもの²⁴

規模別都市人口（三都と地方都市）

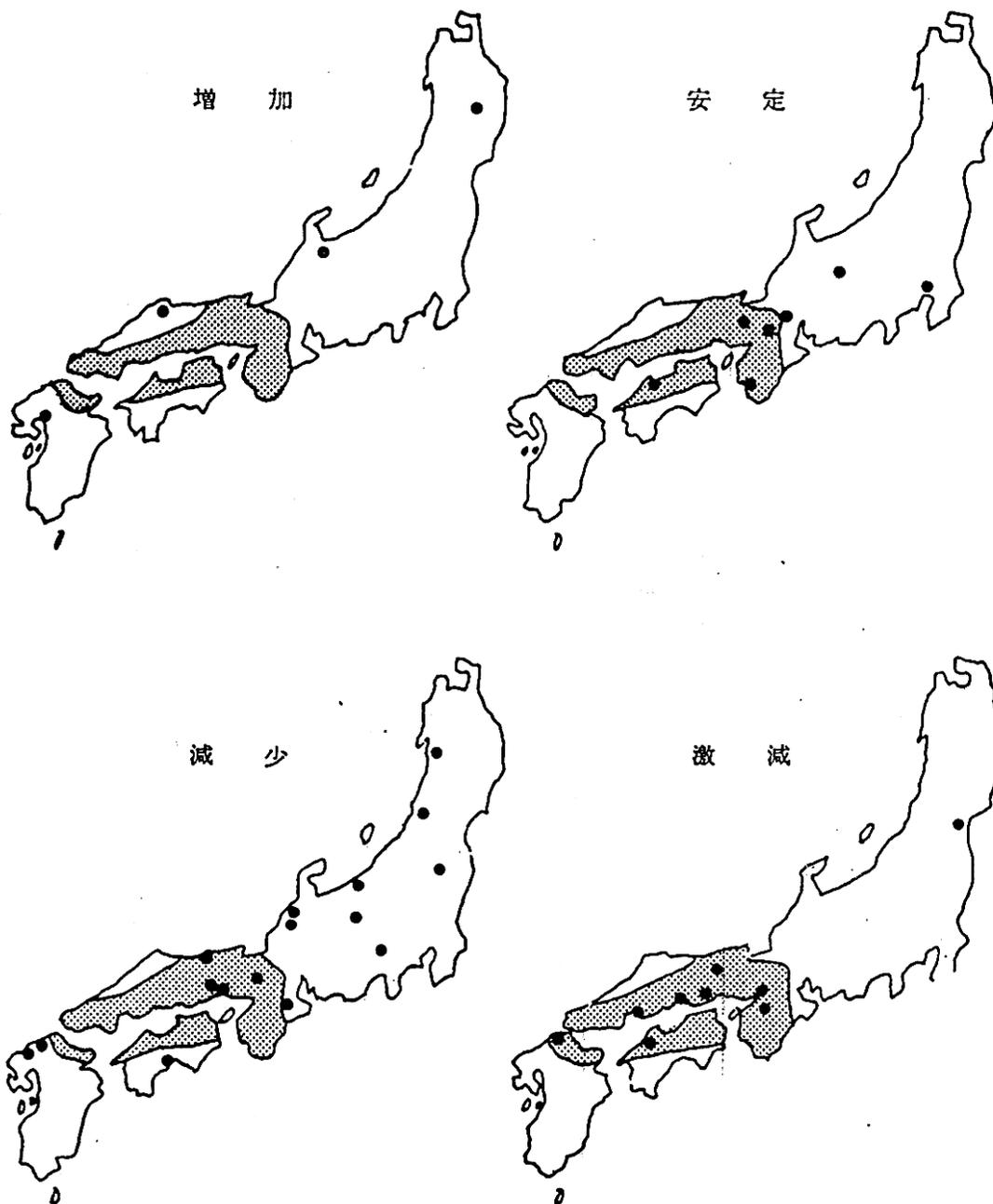


* 斎藤誠二「江戸時代の都市人口」。

城下町人口の 変動類型 (T. C. Smith)

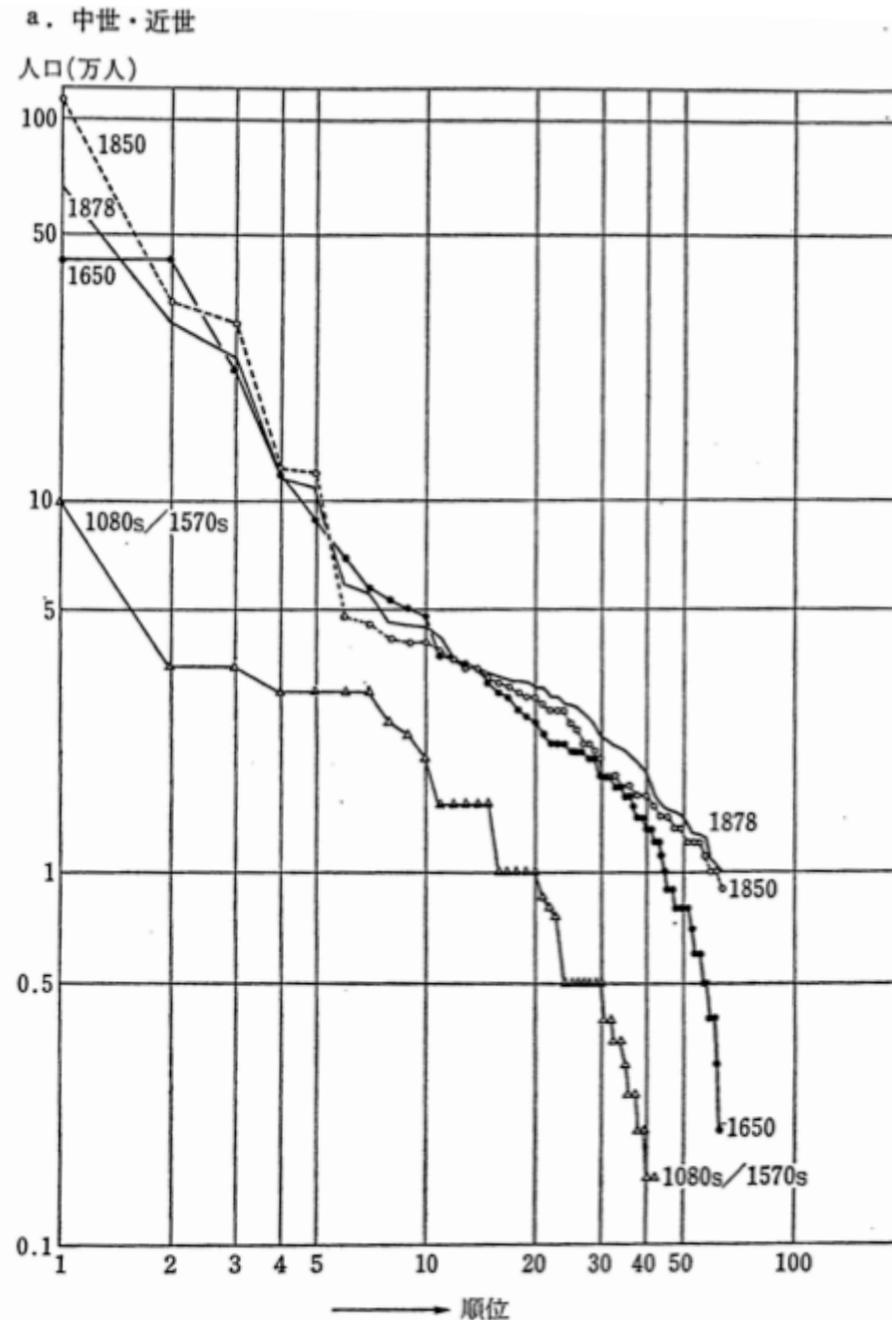
経済先進地帯である近畿・瀬戸内地域の城下町は人口減少が多く、激減した都市も多い。地方の城下町の人口が維持(安定)ないし増加した。

＝江戸時代後期の農村地帯における経済成長の可能性。



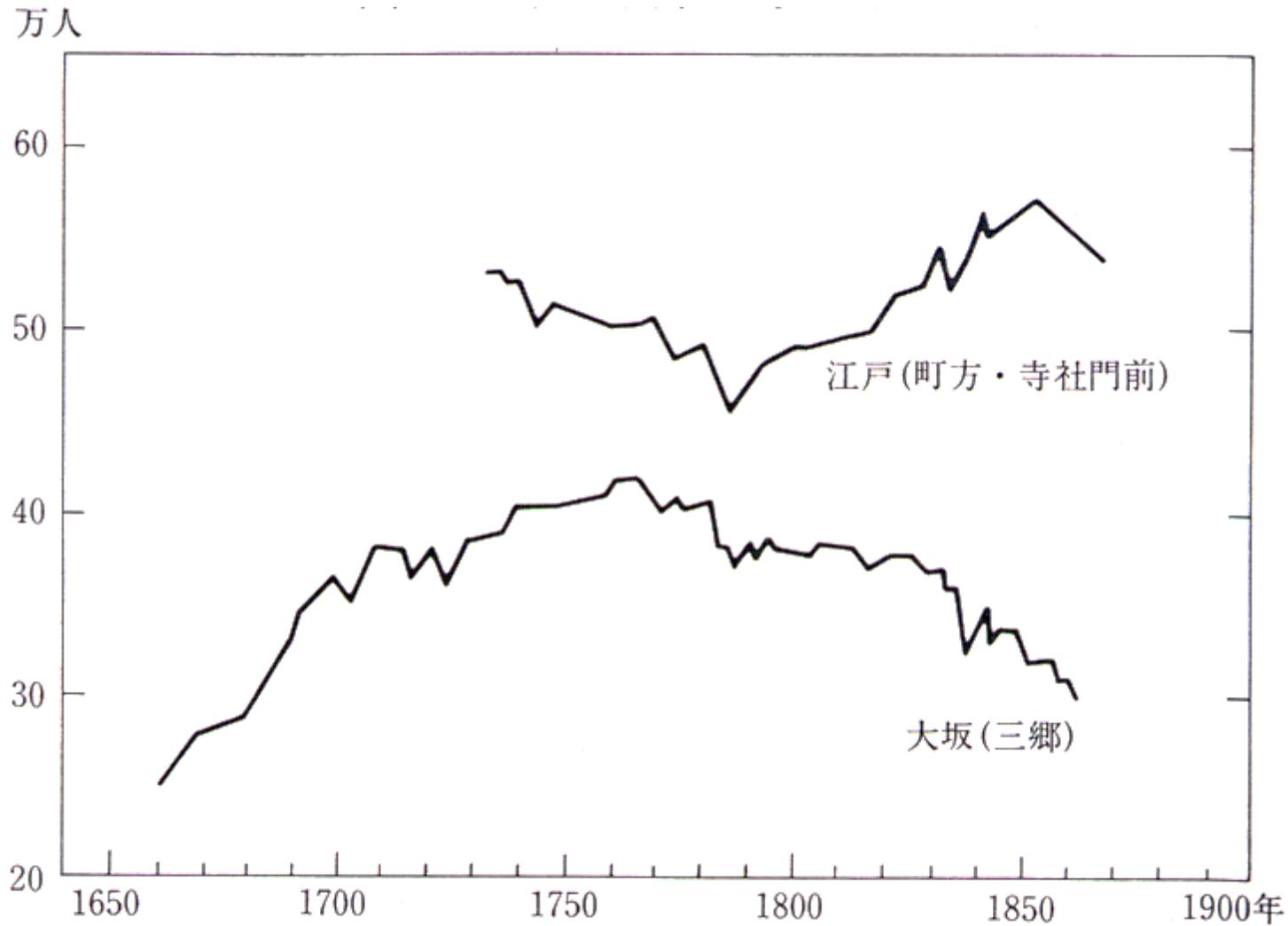
都市の順位・規模別分布 (鬼頭宏)

幕末には江戸と大坂の規模格差が拡大。1万人前後より小規模な都市の増加がうかがわれる。



資料：1080s/1570s (原田, 1972: 142), 1650, 1850, 1878 (斎藤誠治, 1984).

江戸と大坂の人口推移



(資料) 幸田成友『幸田成友著作集』第二巻、中央公論社。大阪市役所『大阪
市史』(復刻版) 第一巻、第二巻、清文堂。

江戸の人口維持・大坂の人口減少

- <江戸> 幕府および諸藩江戸屋敷の支出によって都市収支は恒常的な収入をえていた。
- 18世紀後半から江戸地廻り経済圏の形成が上方依存から離脱させ、江戸が第2の中央市場として機能：繰綿・木綿(常陸・武蔵・下野)、養蚕・製糸・絹織物(上野・下野・武蔵)、製紙(常陸・下野)、絞油(下野・常陸・下総・武蔵)、茶(武蔵)、醤油(銚子・野田)、酒(下総)、塩(下総)、蔬菜(武蔵)、薪炭(相模・武蔵)
- <上方> 畿内の先進技術が各地に伝播し、上方の技術的優位性が低下した。
- 市内の商工業者仲間の規制が嫌われ、市外で原料供給だけではなく、加工商品が生産された。
- 藩専売制などによる「地方の経済発展」と地域間貿易の拡大が、大坂の中央市場としての地位を低下させた。

明治日本の産業革命遺産：構成遺産

— 多くが幕末に始動、江戸・大坂ではなく地方に立地 —

No.	構成施設	所在地
1	萩反射炉	山口県萩市
2	恵美須ヶ原造船所遺跡	
3	大板山たたら製鉄遺跡	
4	萩城下街	
5	松下村塾	
6	旧集成館	鹿児島市
7	寺山炭窯跡	
8	関吉の疎水溝	
9	韮山反射炉	静岡県伊豆の国市
10	橋野鉄鉱山・高炉跡	岩手県釜石市
11	三重津海軍所跡	佐賀市

No.	構成施設	所在地
12	小菅修船場跡	長崎市
13	三菱長崎造船所第三船渠	
14	三菱長崎造船所ジャイアント・カンチレバークレーン	
15	三菱長崎造船所旧木型場	
16	三菱長崎造船所占勝閣	
17	高島炭坑	
18	端島炭坑	
19	旧グラバー住宅	
20	三池炭坑、三池港	
21	三角西(旧)港	熊本県宇城市
22	官営八幡製鉄所	北九州市
23	遠賀川水源地ポンプ室	福岡県中間市

2015年5月4日ICOMOS勧告